

里山基本計画の策定に向けた 里山活動を考えるワークショップ ニュース

寒い日が続き、インフルエンザも大流行しておりますが、いかがお過ごしでしょうか？

9月からスタートした「里山活動を考えるワークショップ」ですが、今回、最終回を迎えました。

1月24日（木曜日）に第5回ワークショップを開催しました。

今回は、これまでワークショップの経過やこれまでの皆さんからのご意見を踏まえてまとめた『里山基本計画』の概要を報告させていただきながら、次年度に何から取り組んでいくのか、「はじめの一步」の活動を考えていただきました。

第5回ワークショップ「次年度に向けて、はじめの一步の活動を企画しよう！」

■日時：平成31年1月24日（木曜日）午後7時から9時

■場所：平成こども塾 丸太の家

■参加者：25名

■プログラム：



(1)開会

- ・今回のプログラムの説明

(2)前回の振り返り

- ・前回のワークショップで各グループから提案された場所、資金調達、人材確保、組織・ノウハウのアイデアについて説明しました。

(3)みどりの推進会議の報告

- ・12月3日に開催されたみどりの推進会議において委員から発言された内容について説明しました。

(4)これまでのワークショップのまとめ

- ・9月から開催されたワークショップや現地見学会、里山講演会の経過報告と、里山保全の理念、基本方針（コンセプト）、4つの活動プロジェクト、ゾーニングイメージ、活動拠点施設のイメージ、里山保全の仕組みなど、里山基本計画の概要案について説明しました。

(5)はじめの一步の活動検討(グループワーク)

- ・「里山散策路づくり」、「里山の暮らしを伝える・体験の場づくり」、「里山プレーパークづくり」、「里山風景づくり」4つの活動プロジェクトごとのグループに分かれ、今後実施する「はじめの一步」の活動アイデアを考えました。

(6)発表

- ・グループごとに話し合いの内容を発表していただきました。

(7)全体討議

- ・今後の活動に向けた体制づくりとして、リーダーが集まった会議等をしていくことを伝え、そのメンバーになりたい方を募りました。

(8)まとめ

- ・閉会の挨拶として長久手市建設部角谷部長からお礼の言葉がありました。

これまでのワークショップのまとめ

これまで第4回までのワークショップや現地見学会、里山講演会などを振り返りながら、里山基本計画の概要案について事務局より説明しました。

長久手の里山は『多様な価値』を持つ、『市民全体の財産』と位置づけ、すべての市民が里山の価値を共有しながら、里山を守り、活かしていくことをコンセプトに、「散策路づくりの活動」、「里山暮らしの伝承・体験の活動」、「里山プレーパークづくりの活動」、「里山風景の管理・保全の活動」を進めていくことを紹介しました。

また、里山保全活動をマネジメントする「(仮称)ながくて里山センター」を構築していくことや、「里山保全活動を行うゾーニング」や「里山保全活動拠点施設」のイメージ、さらには里山の保全や活動を担保するための条例制定などの提案を盛り込んだ里山基本計画（案）を紹介しました。



各グループの「はじめの一步の活動企画」話し合いの成果

①里山散策路づくり

里山散策路づくりのグループでは、ながくて里山クラブのメンバーを中心に、旧山口村道を復元し瀬戸市内までつなげる散策路づくりに取り組みつつ、はじめの一步としては、「みんなで歩こう！」と、市民参加の散策会を実施していくことが提案されました。



②里山暮らしを伝える・体験の場づくり

里山暮らしを伝える・体験の場づくりのグループでは、里山保全の理念をしっかりとって、30年間持続的に活動できるようにするため、第1ステージでは多くの人を集めるイベント、第2ステージは里山保全活動に参加するような教育、第3ステージは里山の資源でお金を稼ぎながら里山保全管理を行う、自立したNPO等の組織化などを進めていくことが話し合われました。



その中で、はじめの一步としては、美しい里山づくりに向けて、地元の人も含め、市民が一緒になって3月に「草刈り活動」をしていくことや、「楽しい散策会」などのイベントを行って、多くの人を集め、里山に関心を持ってもらう活動が提案されました。

③里山プレーパークづくり

里山プレーパークづくりのグループでは、プレーパークをつくる目的を明確にするために、はじめの一歩として、「プレーパークを実践している人の話を聞く」ことから実施することになりました。また、「子どもの声、ニーズを把握」しながら、「プレーパークとしてできそうなことを実施」し、「子どもや保護者も体験できるようにする」こと、そして体験してもらいながら「プレーパークの内容を深めていく」ことを繰り返し続けていくことが提案されました。



また、各小学校にプレーパーク委員会を作っていくこと、里山に興味・関心を高めてもらえるように色々な人を集めて体験してもらったり、スタッフとして働いてもらえるように、若い人、女性、高齢者を巻き込む人材発掘の戦略を考えていくことが提案されました。

④里山風景づくり

里山風景づくりのグループでは、田んぼ、畑、湿地、雑木林などを歩くことができる「観察路づくり」をすることが提案されました。この観察路づくりでは、サクラバハノキや竹、湿地に生える木などを伐採し、貴重な生き物が生息できる環境を整えること、原っぱにして利用できる場にしていくことが提案されました。



また、はじめの一歩としては、「自然観察会」を開催し、親子がカメラを持って参加して、昆虫、植物などの写真を撮って、これを1年間続けて里山風景のデータとして取りまとめていけると良いと提案されました。

全体討議～今後に向けて～

各グループで提案された「はじめの一歩の企画」を実際の行動に移していくため、各グループの発起人・世話人が集まった会議を3～4月に開催していくこととなり、そのメンバーを募ったところ、各グループから1名ずつの計4名の方に関わっていただけることになりました。

また、今後は里山保全活動をマネジメントする「(仮称)ながくて里山センター」の具体化に向けて、全体をマネジメントできるマネージャー・コーディネーターの候補も探していくことにもなりました。



最後に

今回で里山活動を考えるワークショップは終了しますが、これからが始まりで、これから実際の行動に移して頑張っていこうと、全員で記念撮影をして終了しました。



<ワークショップ後のアンケートの主な意見>

- 生きものが生息しやすい環境をつくるために、協力できることはやりたいと思います。市にもがんばってもらって、活動の場を確保してもらいたい。
- 『はじめの一歩』に期待します。協働しましょう。
- 里山を将来にわたって残せるよう、できることを少しずつでも参加していきたいです。
- 次のステップが本当に大事だと思います。来年度に向けて実際の活動で表現していきたい。
- 今後も里山保全活動に関わっていきたく思うので、また企画してください。
- 里山をつくるにはそこにどんな生き物がいるかを知ること。そのためにはデータを集めること。田んぼには水を入れる、池をつくる、竹林、雑木林は間伐する。これからもよろしくお願いします。
- 里地里山は文字通り生活に密着した場所であり、その生活習慣を体験し学べるフィールドとして作り上げていくことが重要であると感じています。
- 東山の道案内をしますので、是非お越しください。楽しい年になる気がしています。
- 里山の再生是非とも実現したいですネ。散策路づくりが楽しみです。
- 次につながる話し合いになり、これからさらに里山活動が進んでいくという期待できるワークショップでした。ありがとうございました。
- 活動には人材の確保が重要。大人の考えだけでなく、子どもの考えも知る必要があるのではないか。
- 人が大切！という意見に強く同意します。プレーパークの実施者をどう見つけていくか、その参加者をどう継続していくか、ヒントをいただいたので、より深く考えていきたい。

【お問合わせ先】

長久手市みどりの推進課 電話：0561-56-0552